

県高 P連 会報

第 134 号
2026.2

編集発行

富山県高等学校PTA連合会
発行人 会長 西能 淳
富山市千歳町1-5-1
富山県教育記念館41号
TEL 076 (432) 2810
FAX 076 (432) 1501

令和7年度県高P連大会・指導者研修会を開催

令和7年度富山県高等学校PTA大会・指導者研修会を10月21日にホテルグランテラス富山で開催しました。

開会式では、山崎秀明副会長の開会のことばに続き、西能淳会長の挨拶で、文部科学大臣表彰の大門高校、全国高等学校PTA連合会会長表彰の魚津高校、砺波工業高校の各PTAにお祝いの言葉を述べられた後、本連合会について4月からの一連の活動を振り返り紹介されました。

また、県が作成している第3期富山県教育大綱（令和8年度から5年間）に関する意見交換会で、本連合会が昨年度から取り組んでいる「スマート・スマホ運動」について説明し、新しい時代を担う子供達のためにネットリテラシー（デジタルリテラシー）教育の充実についてお願いしたことを報告されました。

続いて廣島伸一教育長から、「連合会の皆様には、昨年度から始められた「スマート・スマホ運動」をはじめ、各学校の実情に応じた様々な取り組みを通して、子供たちの規範意識の向上、職業観の形成などに

貢献いただいていることに改めて感謝を申し上げます。県では、富山県教育振興基本計画に掲げる目指す姿「すべての県民が生き生きと自分らしく暮らせる真の幸せ（ウェルビーイング）の向上」に基づいて政策を展開しております。また、県立高校に関しては、少子化が進む時代においても高校生の皆さんが明るい未来と夢を叶えることができるよう、今年8月に「新時代とよまハイスクール構想」の実施方針（素案）をとりまとめ「学びたい、学んでよかった」と考える県立高校づくりを推進したいと考えております。皆様方には子供たちの健やかな成長と教育の振興に、今後ともご支援を賜りますようお願いするとともに、貴連合会のますますの発展をお祈り申し上げます。」とご祝辞をいただきました。



開会式に引き続き、4校のPTAから研究発表が行われました。

一 生徒数減少後のPTA活動

～PTA活動を持続可能にするための工夫～

魚津工業高校PTA

会長 久田 哲司

二 本校PTAの取組

～生徒たちの「思い」に寄り添い後押しする～

富山高校PTA

会長 中村 賢

三 これからのPTA活動

～目指すべき活動に向けて～

大門高校PTA

会長 高橋 一史

四 親と子どものウェルビーイングを考える

～PTA活動とともに～

雄峰高校PTA

会長 大引 光

全体討議では各発表に対して活発に質疑応答が行われ、充実した討議が展開されました。時代に合った新しいPTA活動の取り組みをお互いに紹介する有意義な時間になったようです。



その後、県教育委員会生涯学習・文化財課の河原千里青少年・家庭成人教育担当課長と、富山県高等学校長協会副会長の辻ゆかり砺波高校長から講評をいただきました。



河原課長は、「本日発表したどの学校も課題をしつかり捉え、未来のPTA活動に向けて持続可能な取り組みを行っている。保護者と教員が一緒に子どもを支えていくという、まさにPTA本来の趣旨を大切にしている活動ばかりで非常に参考になった。各学校の熱心な取り組み、発表までの準備、そして『子供たちの成長のために』という思いに心から敬意を表します。」と助言されました。

辻校長は、「4校の発表は、内容が素晴らしく、どの学校の実践も取り入れたいものばかりである。各学校とも、横のつながりを大切にし、連絡を取り合いながら、さらにPTA活動を高め合っていたけるとありがたい。また、PTA活動を通して生まれる大人同士の温かいつながりによって、皆さんの心の居場所（ウェルビーイング）の一つになれば幸いです。」と講評をいただきました。

最後に記念講演があり、鹿児島県私立新留小学校設立準備財団代表の古川理沙氏が、「学校というコモン（育ち合う力）を取り戻す」と題して講演されました。

研究発表概要

生徒数減少後のPTA活動

～PTA活動を持続可能にするための工夫～

魚津工業高校PTA

会長 久田 哲司

本校は昭和三十七年に創設され、今年で創立六十三周年を迎えます。「創造・誠実・練磨」の校訓のもと、新川地区唯一の工業高校として、これまで多くの卒業生を社会に送り出してきました。現在、本校PTAでは、生徒数減少という時代背景の中にあっても、活動の充実と継続を図るため、運営方法の抜本的な見直しに取り組んでいます。まず、組織改革として「生徒指導生活部会」を廃止し、組織の簡素化を図りました。その結果「学校保健委員会」や「さわやか運動」などの各種活動について、全保護者へ、直接参加を呼びかける体制となり、保護者一人ひとりの参加意識の向上が見られるようになりました。次に、保護者への連絡方法を大きく見直しました。従来の紙媒体による連絡は、時間や手間を要するという課題がありました。そこで、オープンチャットなどのSNSを活用した連絡体制を導入したところ、日程調整が容易になっただけでなく、情報が迅速かつ確実に伝わるようになりました。その効果は、全体研修会や企業見学における参加率の向上として明確に表れています。さらに、総会資料のホームページ掲載や、公式インスタグラムの積極的な活用にも取り組みました。これにより、学校と保護者との情報共有が促進され、相互の連携が一層強化されるという相乗効果が得られています。

このような取り組みによって、PTA活動は着実に円滑化しています。今後も、少ない役員数であっても活動を継続・発展させていけるよう、持続可能なPTA運営を目指してまいります。

本校PTAの取組

～生徒たちの思いに寄り添い後押しする～

富山高校PTA

会長 中村 賢

本校PTA（むつみ会）では、「生徒たちの思いに寄り添い、学校と家庭をつなぐ存在であること」を基本に活動を進めている。創立百四十年の歴史を有する本校において、社会環境や価値観が大きく変化する中、PTAには対話と協働を重視した関係づくりが求められている。

本校PTAでは、生徒の声を起点とした学校づくりへの関与を進めてきた。その象徴的な取組が、生徒会執行部との懇談会を通じた服装に関する検討である。制服・私服それぞれの特長・デメリットについて、生徒や保護者のアンケートや意見交換を通じ、経済面や生活面、教育的意義の観点から整理を行った。PTAは判断を主導する立場ではなく、生徒の考えを学校運営に適切に反映させるための調整役として関わってきた。その結果、令和六年度には服装選択制の試行が実施され、令和七年度においても継続して実施されている。

また、年二回発行している「むつみ会報」では、写真を多く用いた親しみやすい紙面づくりを通じ、学校行事やPTA活動の様子を保護者に伝えている。併せて年二回開催している「親の学び講座」では、保護者が良き親・良き保護者として学び成長する機会を提供している。

本校PTAでは、生徒の成長を第一に考え、保護者・教職員・生徒が互いに理解し合いながら学校づくりに関わること大切に行っている。今後も、生徒が自ら考え行動できる環境を整え、家庭と学校が連携したPTA活動を継続していきたい。

これからのPTA活動

～目指すべき活動に向けて～

大門高校PTA

会長 高橋 一史

本校は、昭和六十一年四月に開校し今年で四十周年を迎えました。県内唯一の「情報コース」を設置する普通科単独校であり、令和六・七年度、文部科学省高等学校DX加速化推進事業に採択されました。情報関連分野に関心を持つ理系志望者は二年次から情報コースに進級し、近県私立大学と富山県立大学で体験学習を実施しています。

さて、本校のPTAは、令和七年度優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しました。PTA組織は、会長、副会長、監事が執行部を組織し、学年委員は「文化広報」「生徒・生活指導」「保健」の委員会に所属し活動しています。コロナ禍でPTA活動が減ったことにより、保護者間の繋がりが、学校に足を運ぶ機会が減少し、保護者の学びの場への関心が薄れているのではという不安がありました。そこで、目指すべき活動への方向性や、教員の働き方改革にPTAとして寄り添うことを目的とし、全保護者を対象にアンケートを実施しました。研究発表では、その結果を踏まえ、今後の活動目標と今年度の改善事例を提示しました。

今後のPTA活動では、必要な行事を継続し、曜日や時間帯、形態などを検討しながら、保護者も教員も無理のない方法で行うことを目標とし、「子どもの健全な成長を図る」を保護者と教員の共通項として時代に合ったPTA活動を模索していきます。

親と子どものウェルビーイングを考える

～PTA活動とともに～

雄峰高校PTA

会長 大引 光

雄峰高校は、昭和12年に「富山夜間中学」として県立神通中学校に併設された。今年度創立88年を迎える。定時制課程の昼間単位制と夜間単位制、通信制、専攻科の4課程が設置されており、校舎新築移転を機に、県内広範囲から多くの生徒が通ってくる。

全く性格の異なる課程が集まる学校のため、PTA活動自体は少なく、負担を強いなのがモットーである。さわやか運動は朝と帰りの挨拶を昼間・夜間の課程で呼びかけ、保護者は子どもたちや先生方と交流するよい機会となっている。

活動のメインとなる学園祭のPTA企画では、これまでの小物製作から食事の提供に大きく方向転換を図った。好評であり、子どもたちの笑顔や売れ行き状況が、役員の満足感や達成感を高めている。その根底には、直に顔を合わせれば、それぞれの境遇が垣間見えて通じ合うものがある。活動を通して、先生方と保護者どうしの距離が縮まり、安心感がもてるようになる。

様々な事情を抱えた生徒を支える親が、家庭でも元気になるヒントになればと思い、アンケートを実施した。高校生でも内心は、親と一緒に過ごす時間を強く望んでいる。これまで一番温かい言葉をかけてくれたのは親を挙げ、人が最も多く、半数以上の高校生が不安や逆境に立たされた時にかけてくれた言葉が印象深い、と答えていた。親は温かいメッセージを子どもに必ず伝え、共感しながら親と子どものよい関係性「ウェルビーイング」を強めていくことが大切と考える。家庭でも学校でも、親は子どもの成長を後押しする応援団でありたいと願う。

記念講演

演題
「学校というコモン」
～育ち合う力を取り戻す～

講師

鹿兒島県私立新留小学校設立準備財団代表、ひより保育園、そののまちほいくえん、日当山無垢食堂代表

古川 理沙 氏

1 AI時代の教育

時代は大きく変わり、AIを使って仕事をする人が増えてきました。AIの発達スピードはさらに加速するとされています。時代がこれだけ変わると、何を覚え、何を知識として知っているかということの価値は小さくなってきます。これからは知識ではなく、「物事を動かす力」がとても大切になってきます。AIと戦わなくてもよい人材を育成するために、AIにできない「行動すること」がこれからはさらに求められることになります。



2 子どもたちの生活環境

昔の子どもたちは地域のお兄ちゃんやお姉ちゃんと一緒に遊びましたが、今の子どもたちはゲームで遊ぶ

ことが多く、ことばを使えなくても困る場面があまりありません。そのまま大人になってしまおうとかななことばを獲得できません。人は無意識にことばを使って物事を考えるので、ことばを獲得できないと考える力が育たなくなってしまう。今の子どもたちは語彙を増やす機会の少ない環境で生活しているのです。

3 保育園児のレストラン

2007年に1つ目の保育園をつくりました。そこでは園児たちがコミュニケーションをうまくとれるように教育しています。あるとき園児たちはみんなバスに乗って水族館に行くという目標を立てました。貸切バス代と水族館の入館料の費用合計8万円を自分たちだけで稼ぐことにしました。そしてその費用を得るために1000円のランチを120食つくることにしたのです。40人分の食事を提供するレストランを3回オープンし、延べ120人のお客さんをもてなしました。リピーターの方が来てくれるように、3回とも違うメニューにし、段取りからお金の計算、片付けまですべて5人の園児が行いました。ただ当時コロナが流行し始めた頃だったので、園児たちは「先生、水族館には行かない方がいいと思います。自分たちは魚に会いたくて『水族館に行きたい』と言っただけだから海に行きます。」と行って行き先を変更しました。卒園式当日に1歳年下の4歳児たちに「やりたいことが見つかった時に、みんな話し合って使ってください。」と

4 今の子どもたちの課題



言って、余った2万円をきれいな封筒に入れて寄付してくれました。素晴らしい人材が育っています。

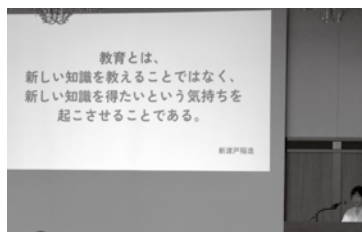
今の子どもたちの課題は学校と家の往復だけで、ほとんど生活していないことにあります。ご飯も洗濯も送り迎えもすべて家の人が行って、とにかく子どもたちが勉強に集中できるように、受験で合格できるように、親が動いています。子どもたちは暮らしてつまづくことがないので、この先にどういうことがあるのか想像できないし、経験を生かす場もありません。だから行動しようと思っても、行動できないまま10年、15年と過ぎてしまうのです。

5 学校は地域のハブ

2008年に2つ目の保育園をつくり、町の人とコミュニケーションをとれる環境を整えました。その結果、シャッター街だった町の通りが復活したのです。人通りができて、コミュニケーションが増え、どんどん町が活性化されていきました。残念なことに日本では年間平均4700校の学校が廃校になっています。経済合理性の観点から仕方がないことかもしれませんが、そうではないところに学校の価値があるのかもしれない。そこで閉校になった新留小

6 消費者ではなく生活者として

子どもたちが周りにいる大人たち、特に多世代の人とのコミュニケーションをとる中で「食」と「ことば」は学びの土台になると思います。私たちはこの部分をしっかりと育める学校をつくらうとしています。今の子どもたちや私たち保護者はもう完全に消費者になってしまっています。みんな暮らしをつくり出していく中で、消費者ではなく生活者としての一面をどれだけ増やしていけるかにヒントがあると思います。わが子はちゃんとこの町で暮らしているか振り返ることが大切ではないかと思っています。



教育長陳情

令和7年11月14日、西能淳会長が広島伸一教育長に「令和8年度教育関係予算措置その他に関する陳情書」を手渡し、次の8つの項目について陳情しました。

- 1 県高等学校PTA指導者研修事業の振興
- 2 時代の進展に即応した教育改革への支援
- 3 生徒指導の充実
- 4 時代の進展に即応した学校づくりの推進
- 5 学校運営費や旅費等の確保等
- 6 定時制・通信制教育の振興
- 7 特別支援教育の振興と教育環境の整備充実
- 8 高等教育機関の拡充

西能会長は、特に、様々な悩みを抱える生徒達に対応するための支援、体育館や特別教室における空調設備の早期設置、タブレット端末の家庭状況に応じた経済支援と機器の早期調達、県立学校の施設・設備の充実等について、強く要望されました。

陳情を受けて、広島教育長からは「日頃より県高等学校PTA連合会の皆様方には本県教育の充実・発展に多大のご協力、ご尽力をいただいていることに深く感謝申し上げます。ただいま令和8年度の高等学校教育関係予算措置等について承ったご要望については、関係各課で十分検討させていただき、来年度予算編成の中に少しでも反映させるよう努めていくとともに、現場の先生方の本分である生徒と向き合う時間についてどうすれば確保できるのか、特に必要なのは何かをよく考えて、効率よく教育活動を行える体制をできるだけ支援していきたい」との回答をいただきました。



知事要望

令和8年1月19日に、西能淳会長、村賢副会長、松田英昭副会長、瀧根康弘副会長、田中宏育副会長が新田八朗知事を訪ね、令和8年度教育関係予算の充実に要望しました。

松田副会長からは、重点事項①【時代の進展に即応した学校づくりの推進】の中で、主にタブレット端末の公費助成及び支援と、空調設備等の整備について要望されました。

中村副会長からは、重点事項②【特別支援教育の充実】について、すべての子どもが持つ「教育を受ける権利」と「個人の尊厳」を保障するため、多様な教育的ニーズを持つ生徒への支援を要望されました。

瀧根副会長からは、重点事項③【高校生指導等の充実】の中で、主にスクールカウンセラーの配置時間数増と、悩みを抱える生徒が学校以外の場所でも相談できるシステムについて要望されました。田中副会長からは、重点事項④【教員の資質向上】について、教員の子供達と向き合う時間を少しでも増やすために、国への教職員定数改善の働きかけと、働き方改革の推進を要望されました。

最後に西能会長が総括し、「授業料の実質無償化で家計は助かっているが、授業料以外にも高校在学中は多くの費用がかかる。どの学校も、物価高で光熱費や消耗品代が高騰しやくりが苦しくなっている上に、教育環境を充実させるために徴収しているPTA会費や教育振興費等についても、生徒数減少に伴い今まで通りの会費を確保していくことは難しい。施設・設備の充実や学校運営費の確保等に向けて、少しでも教育関係予算を増やしていただきたい。」とお願いされました。

要望を受けて、新田知事からは「富山県高等学校PTA連合会の皆様方には、日頃から子供達の教育環境充実に向けて高い課題意識を持って取り組んでいただいていることに心から感謝申し上げます。」と、お礼を言われた後、4つの重点事項に対してそれぞれ丁寧な答えをいただきました。



重点事項①に対しては、タブレット端末の経済的支援の継続と納入時期等を改善していくこと、体育館の空調設備は特別支援学校から順に整備を進めていくこと、重点事項②に対しては、「富山県特別支援教育将来構想」に基づいて教員研修の充実や専門家等外部人材の活用を促進していくことに加え、「就労応援団とやま」の登録を増やすなど就職支援を一層進めていくことを述べられました。

さらに重点事項③に対しては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる支援を継続していくこと、学校以外の相談場所としては昨年4月に開設した「富山県子ども総合サポートプラザ」を中心に对应していくこと、重点事項④に対しては、今年度から始めた「とやまUIJ現職教員選考」等により教員志望者の裾野を広げる取り組みを進めること、働き方改革を推進して生徒と教員のあるべき姿に立ち返るように努めていくことを述べられました。

最後に、「今後も各学校の要望を踏まえ、魅力と活力ある学校づくりを進めていく。物価高騰に対応する学校関係予算の確保にも配慮していきたい。また、授業料無償化による新たな課題も惹き起こるが、経済的理由による教育格差が生じることのないよう課題として捉えていきたい。」と回答していただきました。

令和8年度

主な事業予定

○令和8年

4月23日 監査会

令和7年度第4回理事会

5月20日 令和7年度第3回企画委員会

6月4日 総会(安全振興会定時社員総会)

6月16日 第1回幹事会兼理事会

6月17日 砺波地区PTA指導者研修会

6月23日 高岡地区PTA指導者研修会

6月26日 新川地区PTA指導者研修会

6月30日 富山地区PTA指導者研修会

6月下旬 第1回教育向上委員会

7月9・10日 第1回企画委員会

7月23日 北信越地区高P連

8月20・21日 研究大会石川大会

9月29日 第2回幹事会

10月8日 全国高P連大会大分大会

10月20日 第3回幹事会・第2回理事会

11月26日 第2回企画委員会

11月上旬 県高P大会・指導者研修会

12月8日 第2回教育向上委員会

○令和9年

1月中旬 教育関係予算の県教委陳情

2月16日 第4回幹事会

2月中下旬 知事要望

2月16日 第5回幹事会・第3回理事会

編集後記

本年度も会員各位には、総会、教育懇談会、指導者研修会、各委員会、会報発行など、本会の事業運営に多大なるご協力とご支援を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。

(事務局長 中村 謙作)